

# 教育研究業績書

所属	職名	氏名
総合生活学科	准教授	中里 和弘

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2)作成した教科書・教材・参考書		
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項 ・現代都市政策研究会例会 講師  ・東京都港区保健福祉支援部 高齢者支援課事業介護家族サポーター講座 講師  ・NPO法人 生と死を考える会 遺族支援ボランティア養成講座 講師  ・東京大学大学院人文社会系研究科 臨床死生学・倫理学研究会 講師  ・平成28年度 厚生労働科学研究 がん対策推進総合研究推進事業 臨床栄養スタートアップ講座 講師  ・平成29年度 東京都豊島区特養医会講演会 講師  ・介護労働安定センター スキルアップ講座 講師  ・令和元年度尚綱大学公開講座  ・熊本県菊池市医師会 在宅医療多職種チーム向上研修会 講師  ・清水公民館 時事問題研究講座 講師	平成24年5月27日  平成24年度～現在に至る  平成25年度～平成30年度、令和2年度  平成27年1月14日  平成28年10月9日  平成29年8月26日  平成30年11月30日  令和元年9月14日  令和2年1月24日  令和2年1月25日	「介護と医療の連携を考える～在宅医療における他職種連携の試み～」をテーマに、あおぞら診療所が取り組む在宅医療連携拠点事業の報告を行った。  「看取った家族の悲嘆ピアの視点から見たグリーフケア」をテーマに、継続的に講師を務めている。  「心理学から見た死生観」をテーマに、講師を務めた。  「死別の心理～基礎知識と心理学研究(故人との絆の継続、終末期における思いの言語化)～」をテーマに、研究報告を行った。  「がん患者と家族・遺族の心理」をテーマに、講師を務めた。  「看取りにおける施設介護者のグリーフケアについて」をテーマに、講師を務めた。  「グリーフケア」をテーマに、講師を務めた。  「人生の最期を考えるー多死社会が問う価値観の多様性ー」を題した講演を行った。  「在宅医療における本人・家族とのコミュニケーション～人生最終段階の心理的支援とその意義～」と題した講演を行った。  「人生の最期と向き合うためにー多死社会が我々に問う課題とは？ー」を題した講演を行った。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					

がん患者のところに寄り添うためにーサイコoncロジーの基礎と実践(サイコロジスト編)ー.	共著	平成26年4月	真興交易医書出版部	編者:大木桃代、分担執筆:◎中里和弘	pp. 50~56
高齢者のところからだ事典.	共著	平成26年8月	中央法規出版	監修:日本老年行動科学学会、編者代表:大川一郎、分担執筆:◎中里和弘	pp. 522~523
認知症の人の「想い」からつくるケアー急性期病院編ー.	共著	平成29年7月	インターメディカ	監修:井藤英喜、編者:伊東美緒、木村陽子、分担執筆:◎中里和弘	pp. 170~191
高齢者のための精神科医療.	共著	平成29年10月	星和書店	編者:「精神科治療学」編集委員会、分担執筆:◎中里和弘	pp. 401~406
高齢者心理学(シリーズ心理学と仕事).	共著	平成30年12月	北大路書房	編者:佐藤眞一、分担執筆:増本康平、塩崎麻理子、中里和弘	pp. 87~108
がん患者の栄養管理のポイントー基本知識と症例から学ぶー.	共著	平成31年4月	武庫川女子大学出版会	編者:福尾恵介、分担執筆:◎中里和弘、舞鶴史絵、鈴木真智子、佐藤眞一	pp. 65~91
社会福祉学習双書2021第14巻「医学一般 医学概論/保健医療と福祉」	共著	令和2年1月	全国社会福祉協議会	編者:「社会福祉社会福祉学習双書」編集委員会、分担執筆:◎中里和弘	pp. 382-384
(論文)					
青年期における祖父母との死別に関する研究(第1報)ー祖父母の死に対する認識と死別反応についての検討ー.(査読付)	単著	平成18年12月	生老病死の行動科(第11巻)		pp. 11~20
青年期における祖父母との死別に関する研究(第2報)ー死別反応とその関連要因(性格特性、故人の生前の機能)についての検討ー.(査読付)	単著	平成18年12月	生老病死の行動科(第11巻)		pp. 21~30
実際の身体能力と身体能力の自己評価の関係に関する研究ー高齢者と若年者のまたぎ能力の比較ー.(査読付)	共著	平成18年12月	生老病死の行動科(第11巻)	◎荒井龍淳、中原純、中里和弘、増本康平、藤田綾子	pp. 43-52
終末期がん患者への緩和ケアにおける「安楽」について.(査読付)	単著	平成20年3月	臨床哲学(第9巻)		pp. 25~37
死別経験者に向けた小冊子の必要性と項目内容に関する研究ー死別経験者の意見と要望を通してー.(査読付)	共著	平成20年7月	死の臨床(第31巻1号)	◎中里和弘、黒田輝政、藤原篤史	pp. 90~96
遺族の後悔と精神的健康の関連:行ったことに対する後悔と行わなかったことに対する後悔.(査読付)	共著	平成22年3月	社会心理学研究(第25巻3号)	◎塩崎麻理子、中里和弘	pp. 211~220
故人に対する生前の情緒的依存性の測定.(査読付)	単著	平成23年3月	臨床死生学研究(第15巻1号)		pp. 22~29

あおぞら診療所 平成23年度在宅医療連携拠点事業報告。(査読無)	共著	平成25年7月	日本在宅医学会雑誌(第15巻1号)	◎川越正平、中里和弘、片山史絵、天野博、山口朱見、丹野直子、山崎浩二、友松郁子	pp. 137~146
終末期医療における事前の希望伝達の実態とその背景。(査読付)	共著	平成27年1月	日本老年医学会雑誌(第52巻1号)	◎島田千穂、中里和弘、荒井和子、会田薫子、清水哲郎、鶴若麻理、石崎達郎、高橋龍太郎	pp. 79~85
What Has Become More Acceptable? Continuity and Changes in Older Adults' Attitudes toward End-of-Life Care in Japan. (査読付)	共著	平成27年6月	Geriatrics & Gerontology International, 15 (7)	◎Shimada C., Hirayama R., Nakazato K., Arai K., Ishizaki T., Aita K., Shimizu T., Inamatsu T., Takahashi R.	pp. 927-930
Reconsidering Long-Term Care in the End-of-Life Context in Japan. (査読付)	共著	平成28年4月	Geriatrics & Gerontology International, 16(1)	◎Shimada C., Hirayama R., Wakui T., Nakazato K., Obuchi S., Ishizaki T., Takahashi R.	pp. 132~139
近親者と死別した高齢者の悲嘆に関連する死生観についての検討。(査読付)	共著	平成28年5月	ホスピスケアと在宅ケア(第24巻1号)	◎河村諒、中里和弘	pp. 24~37
Verbal communication of families with cancer patients at end of life: A questionnaire survey with bereaved family members. (査読付)	共著	平成30年1月	Psycho-oncology, 27(1)	◎Nakazato K., Shiozaki M., Hirai K., Morita T., Tatara R., Ichihara K., Sato S., Shimizu M., Tsuneto S., Shima Y., Miyashita M.	pp. 155~162
終末期ケアに関する親子間コミュニケーションの関連要因-高齢の親を持つ子世代を対象に-。(査読付)	共著	平成30年8月	日本老年医学会雑誌(第55巻3号)	◎中里和弘、涌井智子、平山亮、島田千穂	pp. 378~385
ホスピス・緩和ケア病棟における患者と家族間の思いの言語化を支える家族支援-遺族調査による家族支援と「患者と家族との良好な関係性」及び「ケアの全般的満足度」との関連性の検討-。(査読付)	共著	平成30年8月	Palliative Care Research(第13巻3号)	◎中里和弘、塩崎麻里子、平井啓、森田達也、多田羅竜平、市原香織、佐藤真一、清水恵、恒藤暁、志真泰夫、宮下光令	pp. 263~271
特別養護老人ホームの看取りケア協働的内省セッションの評価に関する探索的研究。(査読付)	共著	平成31年3月	日本エンドオブライフケア学会誌(第3巻1号)	◎島田千穂、原沢優子、樋口京子、中里和弘、伊東美緒	pp.15-22.
終末期における医療者から家族への意思決定支援が遺族の看取りの満足度に及ぼす影響(査読付)	共著	令和2年4月	日本老年医学会雑誌(57巻2号)	◎中里和弘、涌井智子、児玉寛子、島田千穂	pp.163-172.
高齢者施設における宗教的な関わりの臨床的意義と課題-特別養護老人ホームの介護職員への調査を通して-(査読付)	共著	令和2年7月	Palliative Care Research(15巻3号)	◎河村諒、中里和弘	pp.175-183.
<b>(総説)</b>					
エンディングノート再考; 100%生かすエンディングノートの書き方。	共著	平成26年12月	月刊ケアマネジメント(第26巻1号)	◎島田千穂、中里和弘	pp. 16~19

終末期医療やケアの希望の伝達－ライフデザインノート－の取り組み－.	共著	平成27年1月	介護人材Q&A(第12巻123号)	◎中里和弘、島田千穂、高橋龍太郎	pp. 68～78
介護の世界:「死生観ってなに？」を考える.	単著	平成27年9月	介護人材Q&A(第12巻131号)		pp.80～81
介護の世界;施設における看取りとグリーンケア.	単著	平成28年2月	介護人材Q&A(第13巻136号)		pp. 74～75
変わりゆく介護の姿;看取った後の家族(遺族)への理解.	単著	平成28年7月	看護の子カラ(第21巻452号)		pp. 76～77
変わりゆく介護の姿;終末期の高齢患者と家族の心理.	単著	平成29年1月	看護の子カラ(第22巻463号)		pp. 80～81
身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること;在宅からの終末期の認知症患者の受け入れと家族対応.	単著	平成29年8月	看護の子カラ(第22巻476号)		pp. 54～55
身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること;在宅からつながった患者の看取りを次に活かす情報共有とデスカンファレンスの意義.	単著	平成29年12月	看護の子カラ(第22巻483号)		pp. 40～41
認知症の人と家族にとっての治療とケア;闘病や介護を伴う死別を経験した遺族の語りを理解するために.	単著	平成31年3月	看護の子カラ(第24巻510号)		pp. 28～29
<b>(報告書)</b>					
大阪ガスグループ福祉財団研究報告書.	共著	平成22年3月	大阪ガスグループ福祉財団	◎藤田綾子、刈谷明美、中原純、中里和弘、河村諒、蓮華のぞみ	pp. 101～109
OPTIM Report 2012エビデンス提言:緩和ケア普及のための地域プロジェクト報告書.	共著	平成25年4月	厚生労働科学研究費補助金:第3次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班	編者:江口研二、森田達也、山岸暁美、分担執筆:◎中里和弘、川越正平	pp. 662～663
遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究2(J-HOPE2).	共著	平成25年4月	日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	編者:恒藤暁、宮下光令、志摩泰夫、分担執筆:◎中里和弘	pp.75～81
プロダクティブ・エイジング志向性形成に向けて.	共著	平成25年4月	甲子園大学	編者:藤田綾子 分担執筆:◎藤田綾子、中原純、狩谷明美、中里和弘、河村諒、枝さゆり、長塚美和、久保尚子、竹村節子、大野知代	pp. 4～22

「ライフデザインノート」の普及に関する研究報告書.	共著	平成26年4月	東京都健康長寿医療センター研究所	編者:高橋龍太郎、分担執筆:◎島田千穂、中里和弘、清水哲郎、会田薫子、鶴若麻理、稲松孝思、金丸晶子、荒井和子、古井奈美、石崎達郎	pp. 1~11
訪問看護事業所における遺族支援の実態調査報告書.	共著	平成28年4月	東京都健康長寿医療センター研究所	編者:中里和弘、分担執筆:◎中里和弘、島田千穂、舞鶴史絵、水雲京、佐藤真一	pp. 1~46
厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業 在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発 症例テキスト.	共著	平成30年4月	武庫川女子大学	編者:福尾恵介、分担執筆:◎中里和弘、舞鶴史絵、鈴木真智子、佐藤真一	pp. 29~39
<b>(学会発表)</b>					
死別後の主観的回復度を表す表現に関する予備的研究.	共同	平成18年6月	第48回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、黒田輝政、藤田綾子、藤原篤史	
祖父母の死に対する孫の認識と死別反応に関する検討.	共同	平成18年9月	第19回日本健康心理学会大会	◎中里和弘、石原俊一	
大切な人を亡くされた方のところに寄り添う小冊子の作成を目指して.	共同	平成18年9月	第14回日本介護福祉学会大会	◎中里和弘、黒田輝政、藤田綾子	
故人に対する情緒的依存性と死別反応との関連性について.	共同	平成18年11月	第30回日本死の臨床研究会大会	◎中里和弘、黒田輝政	
遺族の後悔と精神的健康との関連: 行ったことに対する後悔と行わなかったことに対する後悔.	共同	平成19年6月	第49回日本老年社会学会大会	◎塩崎麻里子、中里和弘、岸良美絵、山鹿しのぶ、高浪博美、恒藤暁、藤田綾子	
ホスピスでがん患者を看取った遺族の後悔と精神的健康の関連.	共同	平成19年6月	第12回日本緩和医療学会大会	◎塩崎麻里子、中里和弘、岸良美絵、山鹿しのぶ、高浪博美、恒藤暁	
当院ホスピスで提供される看取りケアの評価.	共同	平成19年6月	第12回日本緩和医療学会大会	◎山鹿しのぶ、岸良美絵、高浪博美、中里和弘、塩崎麻里子	
プロダクティブ・エイジング志向性尺度作成の試み.	共同	平成19年6月	第49回日本老年社会学会大会	◎中原純、竹村節子、狩谷明美、中里和弘、久保尚子、長塚美和、枝さゆり、荒井龍淳、河村諒、藤田綾子	
高齢者における配偶者との不安定な愛着スタイルと生活満足度との関連.	共同	平成20年6月	第50回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、中原純、河村諒、狩谷明美、藤田綾子	

老人大学におけるプロダクティブ・エイジング志向性の介入効果の検討.	共同	平成20年6月	第50回日本老年社会学会大会	◎河村諒、中里和弘、中原純、久保尚子、長塚美和、竹村節子、枝さゆり、狩谷明美、藤田綾子
Productive Role Identity Scale作成の試み.	共同	平成20年6月	第50回日本老年社会学会大会	◎中原純、河村諒、中里和弘、狩谷明美、藤田綾子
独居高齢者の社会的役割が生活満足度に及ぼす影響.	共同	平成20年6月	第72回日本心理学会大会	◎中原純、中里和弘、枝さゆり、竹村節子、狩谷明美、藤田綾子
日本語版Continuing Bonds Scale(「故人との絆の継続」評価尺度)の作成.	共同	平成20年6月	第72回日本心理学会大会	◎中里和弘、塩崎麻里子、恒藤暁、平井啓、増本康平、権藤恭之、藤田綾子
自立度の高い閉じこもりにおけるプロダクティブ・エイジング志向性.	共同	平成20年11月	第16回日本介護福祉学会大会	◎河村諒、中里和弘、中原純、狩谷明美、藤田綾子
故人との絆の継続の機能に関する探索的検討.	共同	平成21年6月	第14回日本緩和医療学会学大会	◎中里和弘、塩崎麻里子、恒藤暁、山鹿しのぶ、岸良美絵、高浪博美、藤田綾子
講演会を通じた成人に対するデス・エデュケーションの可能性について.	共同	平成21年8月	第33回日本死の臨床研究会大会	◎中里和弘、赤澤正人
故人との絆の継続の認識時期および機能についての検討.	共同	平成21年9月	第73回日本心理学会大会	◎中里和弘、塩崎麻里子、恒藤暁、藤田綾子
心理学から見た「生者」と「死者」の繋がり—故人との絆の継続に焦点を当てて—.	単独	平成22年9月	第74回日本心理学会大会	
故人との絆の継続、意味の再構成が遺族の心理的適応に及ぼす影響について.	共同	平成23年7月	第16回日本緩和医療学会	◎中里和弘、河村諒、平井啓、権藤恭之、佐藤真一
遺族の「意味の再構成」と「心理的適応」との関連性について.	共同	平成23年9月	第75回日本心理学会大会	◎中里和弘、河村諒、平井啓、権藤恭之、佐藤真一
老人大学への評価と社会活動の増加との関連.	共同	平成23年9月	第75回日本心理学会大会	◎河村諒、中里和弘、中原純、藤田綾子
死別に伴う在宅高齢者の死生観の検討.	共同	平成23年9月	第17回日本臨床死生学会大会	◎河村諒、中里和弘

拠点が担う多職種合同カンファレンス継続開催の意義.	共同	平成24年3月	第14回日本在宅医学会大会	◎中里和弘、天野博、片山史絵、丹野直子、川越正平
あおぞら診療所が取り組む在宅医療連携拠点事業.	共同	平成24年3月	第14回日本在宅医学会大会	◎川越正平、中里和弘、天野博、片山史絵、丹野直子
多職種の視点を反映した「在宅医療に関する課題」の抽出と概念化.	共同	平成24年3月	第14回日本在宅医学会大会	◎天野博、中里和弘、片山史絵、丹野直子、川越正平
医療と介護の連携—ケアマネジャーの感じている困難感とは—.	共同	平成24年3月	第14回日本在宅医学会大会	◎片山史絵、中里和弘、天野博、丹野直子、川越正平
ケアマネタイム作成による作成による医師とケアマネジャーの連携促進.	共同	平成24年3月	第14回日本在宅医学会大会	◎丹野直子、中里和弘、天野博、片山史絵、川越正平
「病院医師の入院患者に対する在宅医療の視点」評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討.	共同	平成24年6月	第17回日本緩和医療学会大会	◎春原光宏、佐藤一樹、白髭豊、中里和弘、加藤雅志、出口雅浩、山岸暁美、小谷和彦、山田雅子、野田剛稔、川越正平
在宅医療連携拠点事業者意見交換会の開催とその意義.	共同	平成25年3月	第15回日本在宅医学会大会	◎中里和弘、友松郁子、山口朱見、川越正平
多職種合同カンファレンスを通じた職種イメージの変化	共同	平成25年3月	第15回日本在宅医学会大会	◎片山史絵、中里和弘、丹野直子、川越正平
「医療と介護の連携を深めるための基礎知識講習会」開催とその意義.	共同	平成25年3月	第15回日本在宅医学会大会	◎友松郁子、中里和弘、片山史絵、丹野直子、川越正平
ホームページ開設による在宅医療連携拠点活動のオープンソース化.	共同	平成25年3月	第15回日本在宅医学会大会	◎川越正平、友松郁子、中里和弘、山崎浩二
多職種連携の行動を評価する指標作成の試み—連携行動の自己評価—.	共同	平成25年3月	第15回日本在宅医学会大会	◎藤田淳子、池崎澄江、福井小紀子、中里和弘、川越正平
高齢者の終末期医療の希望と死生観との関連.	共同	平成25年6月	第55回日本老年社会科学会大会	◎中里和弘、島田千穂、荒井和子、会田薫子、鶴若麻理、稲松孝思、松下哲、石崎達郎、高橋龍太郎
高齢患者の終末期医療に対する意識の変化.	共同	平成25年6月	第55回日本老年医学会大会	◎島田千穂、荒井和子、中里和弘、会田薫子、鶴若麻理、稲松孝思、松下哲、石崎達郎、高橋龍太郎

緩和ケア病棟入院中に患者と家族が交わす思いと言葉に関する量的研究(J-HOPE2)～果たして思いは言葉にしないと伝わらないのか?～.	共同	平成25年6月	第18回日本緩和医療学会大会	◎中里和弘、塩崎麻里子、平井啓、森田達也、多田羅竜平、市原香織、清水恵、宮下光令、恒藤暁、志真泰夫	
多職種合同カンファレンスの質の評価と効果に関する研究～果たして多職種カンファレンスは意味があるのか?～.	共同	平成26年3月	第16回日本在宅医学会大会	◎中里和弘、友松郁子、片山史絵、山崎浩二、山口朱見、川越正平	
居住系施設の介護職を対象とした終末期ケア研修会～施設の枠を超えて地域で共に学び合う～.	共同	平成26年3月	第16回日本在宅医学会大会	◎友松郁子、片山史絵、中里和弘、山崎浩二、川越正平	
終末期医療の希望の明確化が家族への伝達意識に与える影響.	共同	平成26年6月	第56回日本老年医学会大会	◎島田千穂、中里和弘、石崎達郎、会田薫子、鶴若麻理、清水哲郎、荒井和子、稲松孝思、高橋龍太郎	
ライフデザインノートを用いた終末期医療における希望の伝達に関する研究.	共同	平成26年6月	第56回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、島田千穂、荒井和子、会田薫子、鶴若麻理、稲松孝思、松下哲、石崎達郎、高橋龍太郎	
訪問看護事業所における遺族支援の現状と認識－支援の実施状況、意義と有用性に関連する要素について－.	共同	平成27年6月	第57回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、島田千穂、舞鶴史絵、野田京、石崎達郎、佐藤眞一、高橋龍太郎	
特別養護老人ホームにおける死亡診断体制の実態と看取りケアとの関連.	共同	平成27年6月	第57回日本老年医学会大会	◎島田千穂、中里和弘、伊東美緒、高橋龍太郎	
Effect of continuing bonds with the deceased on bereaved families' adaptation.	共同	平成27年10月	10th International Association of Gerontology and Geriatrics	◎Nakazato K., Kawamura K., Sato S.	
Psychosocial deterrents to older adults' expressing their wishes about end-of-life care in Japan.	共同	平成27年10月	10th International Association of Gerontology and Geriatrics	◎Shimada C., Hirayama R., Nakazato K., Aita K., Ishizaki T., Takahashi R.	
The Nature and Components of Filial Involvement With Advanced Care Planning for Parents in Japan.	共同	平成28年6月	The 23rd Nordic Congress of Gerontology	◎Nakazato K., Wakui T., Hirayama R., Shimada C.	
終末期ケアに関する親子間の会話に影響する子どもの態度.	共同	平成28年6月	第58回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、島田千穂、涌井智子、平山亮	
在宅の看取りケアにおける意思反映が家族の適応に及ぼす影響.	共同	平成29年6月	第59回日本老年社会学会大会	◎中里和弘、島田千穂、舞鶴史絵、水雲京、佐藤眞一	
支援者から見た遺族訪問の実態と意義.	共同	平成29年6月	第19回日本在宅医学会大会	◎中里和弘、島田千穂、片山史絵、水雲京、佐藤眞一	



The Relational Nature of Children's Perceptions of Parental Aging: Findings from a Japanese Sample.	共同	平成29年7月	The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics	©Nakazato K., Hirayama R., Wakui T., Shimada C.
終末期がん患者の「スピリチュアルペインの Assessment とケア」の現状と展望.	単独	平成29年9月	第81回日本心理学会大会	
「終末期に医療者から受けた代理意思決定支援」と「看取りの満足度」との関連－遺族調査からの検討－.	共同	平成30年4月	第20回在宅医学会大会	©中里和弘、島田千穂、涌井智子、児玉寛子
The families' verbalizing of gratitude and apology to patients at end of life – a questionnaire survey with bereaved family members.	共同	平成30年9月	International Conference on Communication in Healthcare 2018	©Nakazato K., Shimada C., Wakui T., Kodama H.
在宅療養高齢者を看取った家族の介護と看取りに対する感情と精神的健康との関連.	共同	平成30年9月	第2回エンドオブライフケア学会大会	©中里和弘、島田千穂、涌井智子、児玉寛子
認知機能が低下した患者の意思表示の可能性に関する検討.	共同	令和元年6月	第24回老年看護学会大会	©伊東美緒、島田千穂、中里和弘、木下衆、菊地和則
人生の最期を考えるワークショップによる終末期準備行動の変化－意思伝達機能低下の将来認識による差異－.	共同	令和元年6月	第61回日本老年社会科学学会大会	©島田千穂、中里和弘、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、粟田主一
高齢者向けの「人生の最期を考えるワークショップ」の評価に関連する要因の検討.	共同	令和元年7月	第1回日本在宅医療連合学会大会	©中里和弘、島田千穂、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、粟田主一
高齢者における終活行動とスピリチュアリティとの関連の検討	共同	令和元年9月	日本心理学会第83回大会	©河村諒、中里和弘
軽度認知障害のある人の語る将来の希望	共同	令和2年6月(web会議)	第21回日本認知症ケア学会大会	©島田千穂、伊東美緒、平山亮、中里和弘
NPO法人人生と死を考える会「若い世代の分かち合い会」活動報告	共同	令和3年3月(web会議)	第3回日本グリーフ&ディレジメント学会 学術大会	©鈴木真智子、中里和弘、北村久仁子、金澤紀子、永井美佳、細海牧子、藤井忠幸、中川京子、小山達也、田畑邦治、大濱竹彦

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

#### 「外部資金」

平成21年4月～平成23年3月	文部科学省 科学研究費助成金 特別研究員奨励費(DC2) 研究代表者「Continuing Bonds」が遺族の適応過程に及ぼす影響についての研究.
平成25年4月～平成29年3月	文部科学省 科学研究費助成金(若手B) 研究代表者 在宅療養支援機関におけるグリーフケアの促進に関する研究.
平成27年2月～平成28年1月	平成26年度 公益財団法人上廣倫理財団研究助成(新規助成) 研究代表者 高齢期の親を持つ子ども世代の「親の終末期医療」に対する認識と態度.

平成27年4月～令和2年3月	文部科学省 科学研究費助成金(基盤B 特設分野研究) 研究代表者:涌井智子、研究分担者:島田千穂、高橋龍太郎、児玉寛子、平山亮、伊東美緒、中里和弘 地域循環型家族介護支援システムの構築に関する研究.
平成28年2月～平成29年1月	平成27年度 公益財団法人上廣倫理財団研究助成(継続助成) 研究代表者 高齢期の親を持つ子ども世代の「親の終末期医療」に対する認識と態度.
平成28年4月～令和3年3月	文部科学省 科学研究費助成金(若手B) 研究代表者 在宅における終末期ケアとの連続性から捉えたグリーフケア.
「社会活動」	
平成18年4月～平成23年3月	大阪・生と死を考える会 運営委員
平成23年5月～令和3年5月	NPO法人 生と死を考える会 理事
平成30年3月～現在に至る	日本老年臨床心理学会 評議員
平成31年11月～現在に至る	日本老年臨床心理学会 機関紙 査読委員